

改、又按屎蓋從尸從朱門之朱、皇國會意字、恐非漢語也、朱門見鐵槌傳、按義楚六帖引廣弘明集載、道士張陵云、男女行朱門玉柱、然則朱門亦非國俗之語、但今本廣弘明集不載所引文、

〔伊島波字類抄〕都人體陰ツヒ、玉壘、玉門等之通稱、屎、開、玉門、朱門、玉泉、閻已上同、〔同人體〕陰

馬ツホ樂ホ是也、騾子、朱門

〔下學集〕上支體玉門キヨクモン陰也、

〔撮壤集〕下支體玉門陰女

〔書言字考節用集〕五肢體女陰女根、陰門、玉門、順和名、辰、字彙、女、韻會、

〔身體和名集〕保ホ、ホド、女陰

〔身體和名集〕門ツビ、ツホ、女陰

〔身體和名集〕邊ベ、陰門

〔催馬樂律〕隱名一段、拍子十、近來不用之

くぼのなをば、なにかいふ、くぼのなをば、なにかいふ、つびたり、けふくなく、たもろ、ひのなかの、ひつきめな、けふくなく、たもろ、

〔催馬樂譜入文〕中抄曰くをは、くぼとも云、奥深く隠れたる所を云、おちくぼ、谷くぼなど云が如し、下の詞ども未審尋ぬべし、考曰、此うた、とくべきよしなし、

〔物類稱呼一論〕陰へへつび、奥羽及越路、又尾張邊にてべ、といふ、關西關東ともにべ、といふ、ふは、小兒の衣服の事なり、上

總下總にてそ、といふ、此外男女の陰名、國々異名多し、略す、江戶にて物和泉及遠江邊にては、つなど、さいはれぬ詞なり、

〔松屋筆記〕九十四女陰を豆といふ事

室町日記十九三丁德永法印吐之事條に、西行の歌見ゆ、豆ドロボウなどもいふゆり、